

平成30年度 園評価

1、園職員自己評価からの評価内容

評価項目	評価内容
1、保育の計画性	良かった点 <ul style="list-style-type: none"> 園の理念・方針・目標について職員研修や会議で取り上げているため、職員全員が理解している。 新採研修でも入職当初に、園の理念・方針・目標について研修を行っている。 保育全体の計画は、園の理念・方針・目標に添った計画が立てられている。 こどもの発達や状況に合わせた保育計画を立てることが出来ており、又こどもの興味を引くような導入の工夫をしている。
	今後の課題 <ul style="list-style-type: none"> 異年齢での交流を目的とした活動が少ないので計画を立て実施したい。 クラス間での話し合いが十分出来ていなかったところもあったので、もっと活発に話し合いを持ち保育の改善につなげたい。 保育を高めるため、職員同士でクラス活動を見せ合い、評価、検討、反省をする機会を持ちたい。
2、保育の在り方 (3歳児未満への対応)	良かった点 <ul style="list-style-type: none"> 健康管理については、毎日、担任がこどもの視診チェックをして看護師へ報告。その後、気になるこどもについては注意観察し症状が悪化する場合はお迎えを依頼した。感染症流行時は、感染防止のため迅速な対応を心掛けた。今年度は胃腸炎やインフルエンザも蔓延することもなく、頭シラミが発生した際、2、3名ほどでくい止めることが出来た。 言葉の発達途上にある未満児に対しては、気持ちをくみ取ったり、分かりやすいことばで話しかけたりと、個々の発達状況に応じた対応が出来た。 午睡チェックの安全性を高めるため、チェック時間の間隔を短くして行うようにした。 3歳未満児には特に職員を手厚く配置して、不足時はパートタイムの保育士を活用し、こどもの安全に十分注意しながら保育出来た。
	今後の課題 <ul style="list-style-type: none"> 保育士同士の連携・協力を深めるために、職員会議の他にグループでの話し合いや、担当ごとの話し合いを持ちたい。 注意する時強い口調になってしまうことがあるようなので、保育士が常に心に余裕を持って保育出来るようにしたい。
3、保育のあり方 (幼児への対応)	良かった点 <ul style="list-style-type: none"> 3歳以上児では、子どもの成長に合わせ、リトミックや、今年度から始めたリズム体操を行い体幹を鍛え強い体作りをした。 運動会や発表会では、こども達が話し合い意見や要望を出して、そこに保育士がアイデアを提供し活動を深めることが出来た。 職員研修でこどもへの適切な言葉掛けについて学び、否定語や禁止語を使わず保育するようになった。 発達に問題のある子どもについては、職員会議で情報交換して、全保育士で同じような対応をするようにした。
	今後の課題 <ul style="list-style-type: none"> こどもたちの家庭状況や成育歴等について職員が共通理解をし、適切な対応について検討する機会をさらに多く持ちたい。 未満児対応職員と同じように余裕がなくなるとこどもを急がせしまったり口調が強くなってしまうので、体制や業務の見直し検討をして常に余裕を持ってこどもに向き合えるような職場環境を作る。
4、保育士としての 資質や能力・良識・ 適性	良かった点 <ul style="list-style-type: none"> 保育士としての資質・能力向上のため外部研修へ参加したり月1回園内研修を実施した。今年度は外部より講師を招き、こどもの人権についての講演会を実施し学ぶことが出来た。 保護者や職員間の挨拶が良く出来ている。又保育士としての身だしなみも清潔感を意識して整えることが出来ている。 何かあった時は、組織の一員として自分の判断で行動せずに主任・園長へ報告相談し対応することが出来ている。
	今後の課題 <ul style="list-style-type: none"> 保育に関する情報や社会情勢に敏感に意識が行くような感性をもっと磨いていきたい。 ピアノが苦手な職員が練習の時間が持てるようにしたい。 保護者の相談に適切なアドバイスが出来るよう、保育のプロとしての知識を習得したい。

5、保育者の専門性に関する研修・研究への意欲・態度	良かった点
	<ul style="list-style-type: none"> ・アレルギー、自立の遅れ等、最近のこどもに多くみられる問題については、職員で話し合い個別の対応をしている。 ・保育園におけるこどもの安全に関しては、常に念頭に置き、月1回様々な状況を想定した避難訓練に全職員で意欲的に取り組みむことが出来ている。 ・幼小の連携では、今年度から5歳児担任を中心に、県の幼小連携についての方針や内容について理解し、小学校見学を実施することが出来た。 ・遊戯室、園庭、砂場、遊具等の教育的意味を理解し、こどもの発達状況に合わせ適切に活用することが出来ている。
6、保護者への対応守秘義務について	今後の課題
	<ul style="list-style-type: none"> ・園内研修では事前にテーマを伝え、クラスごとや個人で意見をまとめ準備してから参加するようになりたい。 ・幼小連携については5歳児担任だけでなく全職員が理解し進めていけるようにしたい。 ・人間性を高める事が、保育の質を高めることに通じるので、保育のことだけでなく様々なことに関心を持って学んでいきたい。
7、地域の自然や社会とのかかわりについて	良かった点
	<ul style="list-style-type: none"> ・園でのこどもの様子は、直接担任がお迎え時に話しをしたり、連絡帳や掲示板を使い保護者へ毎日伝えた。 ・保護者の質問、相談、要望については丁寧に対応し、自分で判断出来ない場合は主任、園長へ報告、相談し対応した。 ・保護者参加の行事後にはアンケートを取り、要望、意見を吸い上げより良い行事開催に役立てた。 ・園の情報を守るため、重要書類の管理を慎重に行い、施錠できる場所に保管したり持ち出しを禁止した。 ・対応上のマナーとして「言葉使いに気を付けよう」と目標をたて、呼びつけを止め正しい言葉使いを心掛けた。 ・日本国籍以外のこどもの入園も多くなってきたが、国籍での区別差別はしていない。 ・保護者からの苦情があった場合、迅速に主任、園長に報告し、謙虚に拝聴し迅速適切に対応した。苦情解決委員会を設置し苦情受付のしくみも整備し保護者に周知している。苦情解決委員会を年2回開催し、第三者委員に苦情を報告相談しアドバイスを受け苦情対応に生かしている。
7、地域の自然や社会とのかかわりについて	今後の課題
	<ul style="list-style-type: none"> ・今後保護者との連携を深めていくために、保護者に行事等で協力依頼が出来るような体制作りが必要であると思う。ただし仕事で多忙な保護者の負担にならないような形で行えたらよいと思う。 ・個別面談を実施していないので、年齢によっては実施することも検討したい。 ・行事の時だけでなく年度末にもアンケートを実施し保護者の意見や要望の把握に努め、可能な限り改善していきたい。
7、地域の自然や社会とのかかわりについて	良かった点
	<ul style="list-style-type: none"> ・保育に近隣への散歩を多く取り入れ、近隣者への挨拶をこどもたちに促し行うことが出来た。 ・実習生や学生ボランティアを受け入れ、担当者を中心に適切に対応出来た。 ・小学校との連携では、県の幼少連携の方針に基づき、学校訪問を実施したり、新入生の引き継ぎを行い園児の育ちについての情報を提供した。 ・運動会では、卒園児を招待し、競技に参加してもらった。 ・園内の畑で作物を育て、作物を使って料理体験をしたり給食で味わった。 ・5歳児が市の認知症講座を受講して、お年寄りの認知症について理解を深めた。
7、地域の自然や社会とのかかわりについて	今後の課題
	<ul style="list-style-type: none"> ・就学児の学校訪問が1校だけしか実施出来なかつたので、今後は就学先全校への訪問を実施したい。